

豊島区立仰高小学校（2年目）

【校長】 稲垣 昌弘 【児童数】 341名 【学級数】 13学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 指導の個別化と学習の個性化を図り、より個別最適な学びを研究していく必要がある。
- 遊びが固定化されてしまったので、定期的な遊びの工夫紹介動画などの作成や休み時間、体育朝会などの取組を工夫する必要がある。
- 「健康のために心がけていることがある」と回答した児童が8割程度で変化がなかったため、家庭との連携を図りながら児童が健康を自己管理する意識を高める必要がある。

【2年目における実態・課題】

- 「運動・スポーツをすることが好き」「体育の授業が好き」の割合が9割を超えている。しかし、「1日60分以上体を動かしている」の割合が5割程度である。
⇒児童の運動・スポーツへの興味・関心を高める。
⇒児童が自ら運動習慣を定着できるようにする。
- 「自分が健康だと思う」の割合が9割を超えているが「健康のために心がけていることがある」の割合は8割程度である。
⇒日常的な健康管理や運動の必要性についての興味・関心を高める。

目標

- ①毎日、合計60分以上、運動やスポーツをする子供（8割以上の児童）
- ②健康について興味・関心をもち自分から心がけて行動する子供（9割以上の児童）

【成果】

- ①運動ができるようになるために大切だと思うことで、「友達に教えてもらう」が61%から72%になり11ポイント、「自分で工夫する」が57%から72%になり15ポイント増えた。
- ②むし歯未処置歯保有率が10.4%から8.2%になり2.2ポイント減った。
また、春から秋の視力検査で視力が維持、または視力が上がった児童が56.2%から61.5%になり5.3ポイント増えた。
- ③1日に60分以上体を動かす児童が51%から62%になり11ポイント増え、30分未満の児童が20%から11%になり9ポイント減った。

【取組】

- ①**体育・健康教育における授業改善**
・毎時間、授業の中で、児童が自分の課題（めあて）をもち、その解決に向けて取り組んだことを振り返る体育の授業スタイルを確立する。
- ②**健康的に生活するための取組**
・毎朝、あいうべ体操やアイアイ体操の時間を設定したり、目や歯のチェックカードを家庭と協力して活用したりして、児童が健康を自己管理する意識を高める。
- ③**運動の日常化を図るための取組**
・ロング昼休みの日を設定し、児童が運動に取り組む時間を増やしたり、「仰高わくわくらんどチャンネル」で遊び方を紹介したりし、主体的に運動に取り組めるようにする。

【取組（詳細）】

①体育・健康教育における授業改善 ・課題を見付けずすんで解決するための授業改善

児童の課題を想定し「課題を見付けるための手だて」と「すすんで解決するための手だて」を視点とし、器械運動領域、陸上運動領域、水泳運動領域、ボール運動領域、保健領域、食育の研究授業を行った。

- 「課題を見付けるための手だて」
・発問の工夫 ・学習過程の工夫 ・導入の工夫 等
- 「すすんで解決するための手だて」
・ICTの活用の工夫 ・掲示資料や教材の工夫 等



6年生 「マット運動」

②健康的に生活するための取組 ・「目の健康推進」と「口腔と歯の健康推進」



アイアイ体操

「目の健康推進」として、視力低下を予防するための「アイアイ体操」と9月・10月に特に目を大切にす月間として「eye 愛月間」を行った。



あいうべ体操

「口腔と歯の健康推進」として、口の周りの筋肉を鍛えることで、口呼吸から鼻呼吸に改善する「あいうべ体操」と正しく歯をみがくことと、歯磨きの習慣を図るための「歯っぴ〜2week」を行った。

学校だけでなく家庭でも取り組むため、児童だけでなく家庭へも健康についての意識を高めることができた。

③運動の日常化を図るための取組 ・「時間の工夫」、「空間の工夫」、「仲間の工夫」

「時間の工夫」としては、昼休みの時間を長くして、運動に親しむ時間を増やす「ロング昼休み」と体育の授業で活用した学習カードを休み時間や放課後にも取り組めるようにする「花咲ケ満開プロジェクト」を行った。

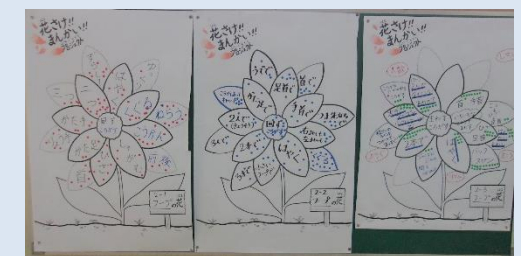
「空間の工夫」としては、児童がより運動に親しむことができるように、遊べる用具を増やし、多様な運動機会を増やす「仰高わくわくらんど」を行った。

「仲間の工夫」としては、遊ぶ際に、友達の遊びの工夫を紹介し、より楽しく遊ぶことができるよう促した。

このように、「時間」「空間」「仲間」を工夫することで、運動の日常化につながった。



仰高
わくわくらんど



花咲ケ満開プロジェクト